

AIESEC in Japan

# Annual Report 2018

2018年度活動報告資料



## Contents

### アイセック・ジャパンについて

アイセックが目指すもの	4,5
会長・代表挨拶	6,7
受け入れ国・送り出し国一覧	8,9

### 今年度の海外インターンシップ事業について

送り出し事業の成果報告	10,11
送り出し事業プログラム実例	12~15
受け入れ事業の成果報告	16,17
受け入れ事業のプログラム実例	18~20
データで見る受け入れ事業	21

### その他活動報告

高校出張授業について	22,23
国際会議「Daybreak」について	24
「Youth Speak Forum」について	25

### アイセック・ジャパンメンバーの声

事業運営に対する想い	26,27
人材育成に対する想い	28,29

### アルムナイの声

### 団体概要

パートナー・協賛企業紹介	32
パートナー協働事例紹介	33
2018年度会計報告	34,35
安全対策の取り組み	36
2019年度代表挨拶	37
団体情報	38

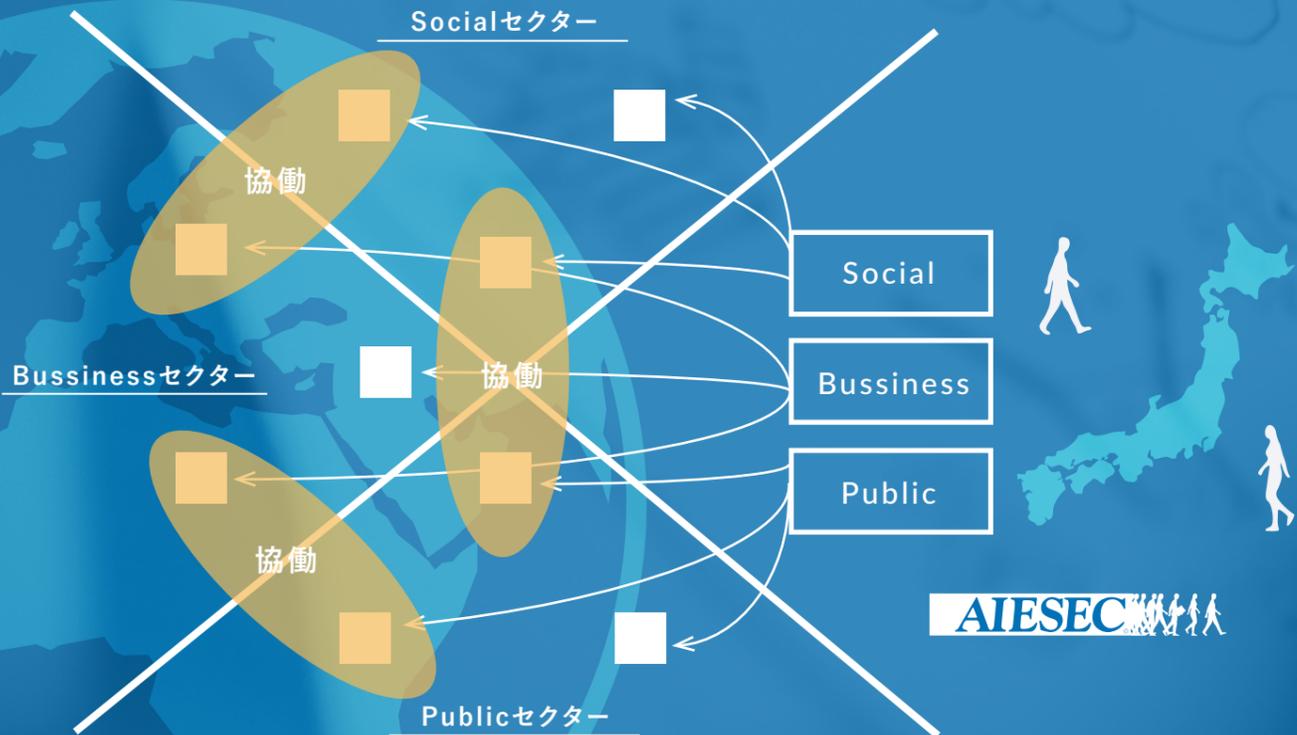
Vision

WE STRIVE TO ACHIEVE  
*Peace*  
&  
*Fulfillment of Humankind's Potential*

「平和で人々の可能性が最大限発揮された社会」

平和とは単に暴力を伴う争いがない社会ではありません。  
文化や宗教などの様々な差異による衝突が生じないことや、  
1人1人が他者を理解し尊重できる社会、  
そして、自分の可能性を信じ最大限に生かせる社会。  
これが、私たちが目指す社会です。  
そんな社会を実現するために今、

少しでも自分の力で社会を良くしたいと思い行動するリーダーと  
リーダーたちが他の人々を先導し、現在分断されているセクター同士を繋げ協働すること  
が必要とされています。私たちはこの2つを通して  
「平和で人々の可能性が最大限発揮された社会」を実現します。



Mission

WE PLACE OUR CONFIDENCE  
*IN Youth*  
AS THE KEY TO UNLOCK A BETTER FUTURE.  
.....  
WE BELIEVE THAT LEADERSHIP  
IS THE *Fundamental Solution*  
AND IT CAN BE DEVELOPED IN ANYONE

「若き共創的リーダーの輩出」

私たちは  
「Youth」と「Leadership」に重きを置いています。  
まだ何者でもない若者だからこそ大きな可能性を秘めている、  
そして人々のリーダーシップこそが  
社会を変えられると信じているからです。

WE ENABLE YOUNG PEOPLE TO DEVELOP THEIR  
**LEADERSHIP**  
THROUGH LEARNING FROM  
**PRACTICAL EXPERIENCES**  
IN  
**CHALLENGING ENVIRONMENTS.**

1人1人の大学生がリーダーシップを身につけていく。  
そんな物語を数多く生み出す場として。  
海外インターンシップを世界中の学生に提供しています。

WE DO THIS THROUGH  
**CROSS-CULTURAL EXCHANGES**  
& BY CREATING THESE OPPORTUNITIES

海外インターンシップに参加することで、  
若者は異文化に触れ、現地社会の課題を知り、  
問題解決のための実践行動を行う。  
まだ何者でもないかもしれないけれど、  
この大きな社会の一員であることに気づく。  
自分の目で見ても耳で聞いて、行動を起こしてみる。  
私たちはこのようにして若者の「行動の壁」を壊すことで  
リーダーシップを育みます。



東京大学教授  
産学協創推進本部イノベーション推進部長  
特定非営利活動法人アイセック・ジャパン 会長

## 各務 茂夫

Shigeo Kagami

アイセック・ジャパンは1962年に設立され、半世紀をはるかに超える歴史ある団体となりました。これまで活動できましたのは、インターン生を受け入れて頂いた企業様、私共の活動にご理解を頂いた賛助企業様や多くのアルムナイの皆様のご支援によるものであり、あらためて心から感謝申し上げます。

35年以上も前になりますが、私も学生時代はアイセックで活動しており、3年の時には国際セミナーというアイセック・ジャパン全体を巻き込む企画の委員長をやり、4年の夏にはフィンランドのチョコレートの会社に海外インターンシップに行きました。学生にとってアイセックとは、世界中に横たわる社会の問題を発見・体感し問題解決に向けて新たな解を模索する訓練をすることができる貴重な体験をもたらす場です。

若者はその訓練を積み重ねリーダーシップを育み、いずれグローバル社会で活躍するリーダーとなります。

アイセック・ジャパンの会長に就任し6年間の経ちましたが、理事会や国内総会等で現役のアイセックメンバーと会うたびに、学生が可能性に満ちていることを感じさせられ、微力ながら今後も彼らのチャレンジに対して常に背中を押す存在でありたいと考えております。

アイセック・ジャパンは設立以来、数万人の学生の参画によって運営されてきました。しかし、私たちのこれまでの歩みは決して平坦なものではありませんでした。設立50周年を迎えた2012年発生した、海外インターンシップ生に係る事件は、アイセック・ジャパンにとっても私自身にとっても忘れることのできないそして忘れてはならない痛恨の極みとなりました。以来6年半もの時間が経ちましたが、このような悲惨な事件が繰り返されることのないよう参加学生の安全確保のための仕組み・制度を整える最大限の努力を積み重ね、事件を風化させることのないよう語り継いでいくことを肝に銘じております。

近年は海外インターンシップを含む、学生にとっての海外渡航経験は多様化し身近になっており、より団体としての真価が試されています。若者の可能性が、より広がり深まるような経験を提供し続けることを通して理念である、"Peace and Fulfillment of Humankind's Potential" という社会の実現のために活動してまいります。

今後とも、強い思いを持ち、同時に自らを磨くことに対してもがき続けるアイセック・ジャパンの学生に対して、引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

アイセック・ジャパンは、何者でもない大学生だからこそ、まだ見ぬ世界を夢見て目を輝かせ、誰にも想像することができなかった世界を創り出すことが出来ると信じています。

世界は今、大きな岐路にあります。技術革新が進み、人類全体の生活が大きく改善される一方で、急速に高齢化する社会や政治システムの動揺など新たな課題が噴出しています。

世界はどこに向かうのか？急速に変化する社会の中で、変化の方向を指し示し、次の世界を創り出す主体は、若者です。

今こそまだ見ぬ世界の実現に向け若者が声をあげ、行動を起こすことが必要なのです。

だからこそ私たちアイセックは、海外インターンシップの企画運営と参加の経験を軸とし、社会への価値発揮に向けた実践経験を若者に提供することを通して、アイセックに関わった全ての学生が新たな未来を創るリーダーとなることを絶対の使命とし、日々活動しています。

私が学生代表を務めました2018年度は、アイセック・ジャパンが強みとする国内外の縦横の繋がりを事業と組織に還元することでより一層の価値を社会に発揮することに力を注ぎました。そして、多くの海外のアイセックメンバーを日本に招待した国際会議の開催や、アルムナイの皆さまとの協働、地方行政との新たな連携等を通じた社会への新たな価値提供の形を模索しました。

今後はより一層繋がりを開拓、強化し、また、志を同じくする産官学とも連携し、社会を変えるための動きの輪を広げて参ります。

若者のリーダーシップこそが社会を変える。そう信じ、これからもアイセック・ジャパンは全力で活動を続けていきます。

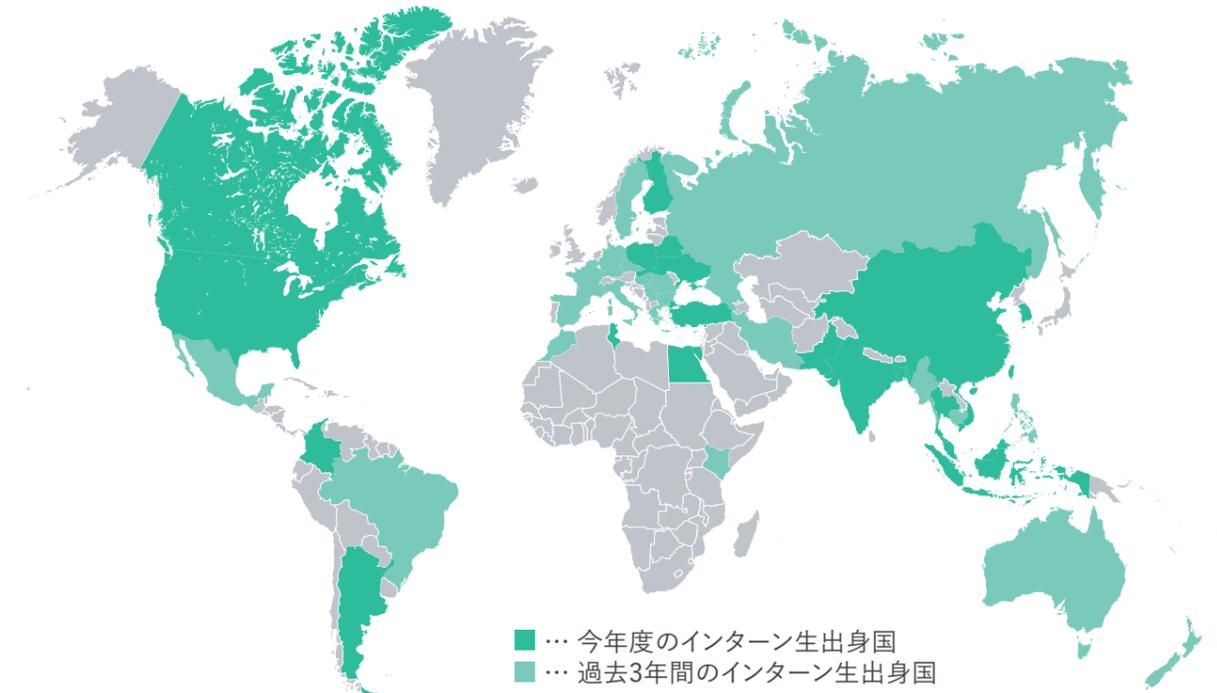
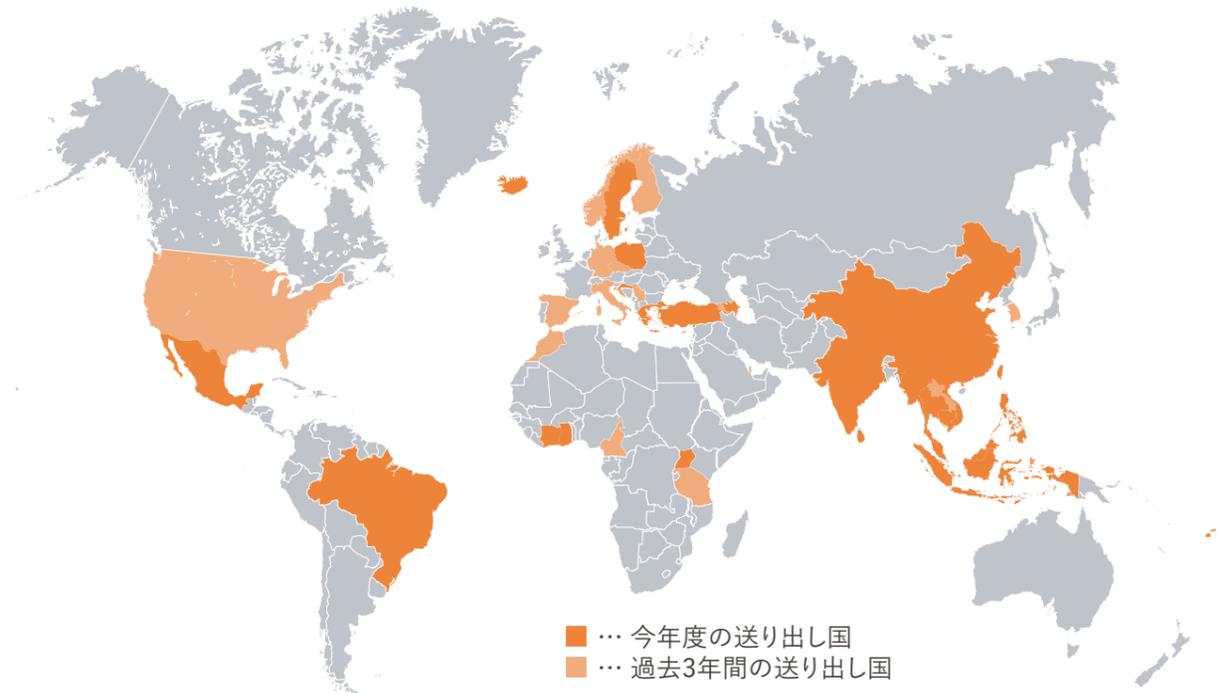
今後とも皆様の変わらぬご理解とご協力を賜れますと幸いです。



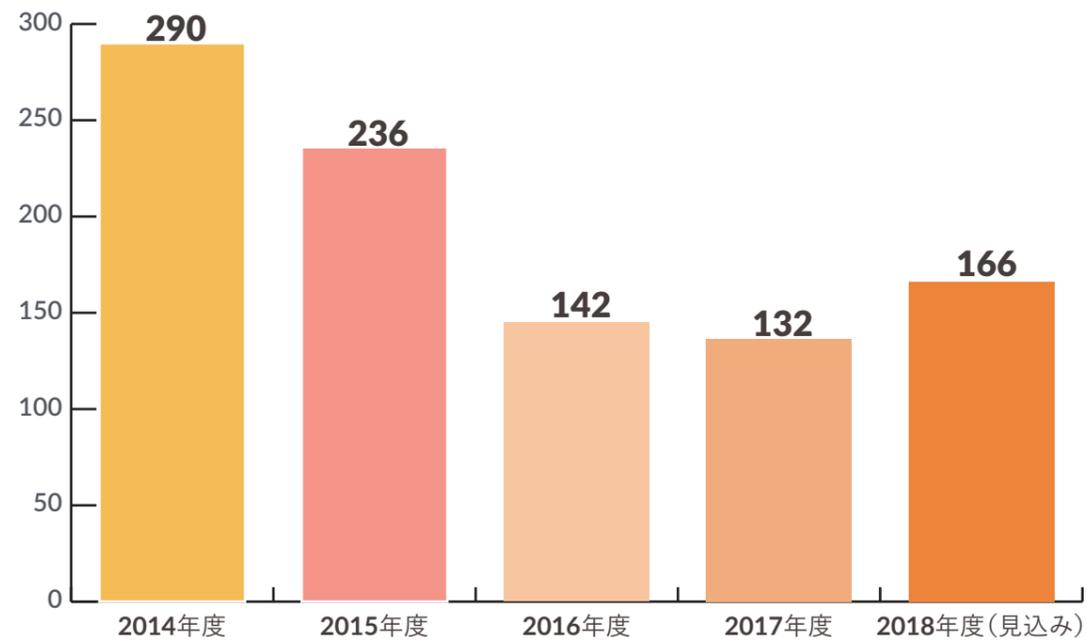
アイセック・ジャパン  
2018年度専務理事 兼 事務局長

## 牧原 宙哉

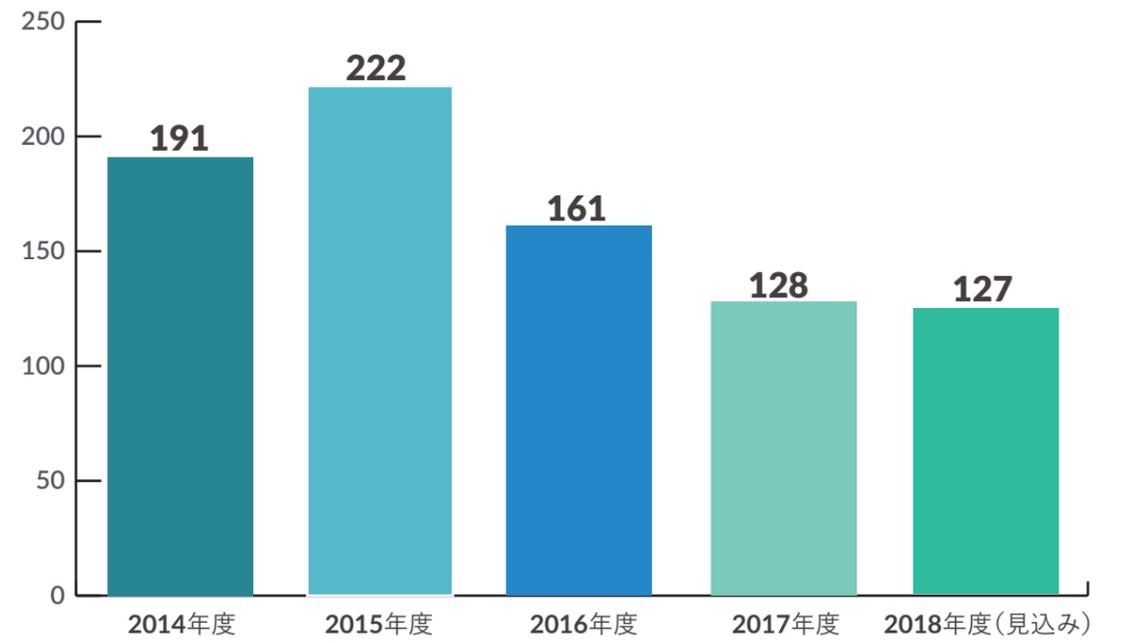
Hiroya Makihara



年度別の送り出し件数



年度別の受け入れ件数





海外インターンシップでの実践的な社会課題解決の現場に携わる経験を通して、若者がリーダーシップ、専門性、志を得る機会を提供します。

### 送り出し事業の特徴

インターン生の送り出し国の支部、企業/NPOとの連携や国内での準備機会を企業やNPOの協力を得ながら進めることで、参加される学生それぞれに合わせたプログラムを準備しています。

### 3つの海外インターンシップ



貧困、飢餓、健康、教育、格差、戦争。世界は様々な社会課題で溢れています。社会課題の最前線で、課題を五感で捉え、考え、悩み、行動し、試行錯誤する。社会を変える、リーダーへの第一歩。



今日、ベンチャー企業は国内外を問わず多くの国で、また様々な分野で活躍しています。宇宙開発、医療、金融、社会課題解決。活躍の場は留まるところを知らません。世界を大きく変える、起業家へ。



私たちが直面する社会課題は、解決困難性が増えています。そんな社会課題を解決するためのビジネススキルや専門知識を身につける。世界で通用する専門性を武器に、社会を変えるリーダーへ。

### NPO・NGOでの短期インターンシップ



インターン先機関 : NPO・NGOなど  
 給与・滞在補助費 : 無し  
 主要インターン生 : 学部生  
 期間 : 6~12週間

社会課題の現場で、現地のNPOや学生と協働しながら、課題の解決に取り組む経験を提供します。NPOやNGOでの短期のボランティア型のプログラムで期間は42日~3ヶ月未満です。給与・滞在補助費の支給はありません。参加できる学生は学部生・院生・院卒業生です。

### スタートアップでの短期インターンシップ



インターン先機関 : スタートアップ  
 給与・滞在補助費 : 原則無し  
 主要インターン生 : 学部生・院生・既卒  
 期間 : 2~3ヶ月

社会をよりよくしたいと思う起業家精神ある若者とスタートアップをつなげ、共に世の中に新たな価値を生み出します。スタートアップやベンチャーキャピタルなど新興企業での短期インターンシップで期間は42日~3ヶ月未満です。給与・滞在補助費の支給はありません。参加できる学生は学部生・院生・院卒業生です。

### 企業での長期インターンシップ



インターン先機関 : 企業  
 給与・滞在補助費 : 有り  
 主要インターン生 : 院生・既卒  
 期間 : 6ヶ月~1年半

新興国の企業を中心に、異文化理解だけでなく専門スキルの習得をしながら、新しい価値を発揮する経験を提供します。長期のインターンシップで、期間は3ヶ月~12ヶ月未満です。給与・滞在補助費が支払われます。参加できる学生は学部生・院生・院卒業生です。

### 送り出し事業 | 今年度の実績



118 件

158 件



14 件

3 件



5 件

5 件

## Japan Women's Initiative Programme

JWIは、自分らしく社会で活躍できる女性の輩出を目指し、アクセンチュア株式会社様とアイセックが協働して運営する海外インターンシッププログラムです。



### プログラム参加者の声

仲間がいたからこそ、  
自分の中での目標が明確になった



川野 彩子  
Ayako Kawano

慶應義塾大学1年生

昨年の夏にベトナムでのインターンシップに参加しました。初めてということもあり、計画の立て方や自分のスキル面に少し不安を感じていました。しかしJWIで出会った同じ目標を持った仲間と悩みや目標を共有する過程で、自分の中でインターンシップのイメージがより明確になっていったと思います。また、自分の立てた計画に対して、メンターさんから意見をいただき、自分を客観的に見つめ直す良いヒントとなりました。JWIに参加したからこそ、研修をその期間だけのものとして終わらせず、それ以降のアイセックでの生活につながる経験になったと感じています。

メンターとの対話が、  
私のインターンシップを良くしてくれた



原田 桃子  
Momoko Harada

立教大学1年生

フィリピンで「ビジネス×地方創生」をテーマにしたマーケティング関連のインターンシップに参加しました。具体的には、地方の農村に一定期間滞在し、マニラから少し離れた農村地帯で育てられている野菜を都市部にあるレストランに持ってきてその上でどうしたらレストランがより人気店舗になるか、売り上げが上がるかということを考えてみました。また、都市部に戻り、レストランのメニュー作成やビラのデザイン作り、また実際に配布を行いました。

私は経営などには、そこまで詳しくなかったのですが、JWIで私についてくれたメンターさんが知識を補ってくれました。

また「自信がなくても積極的にPDCAを回す」という目標を決めることができたのも、より具体的なアクションプランを立てることができたのも、メンターさんが私の強みを話を聞き出して理解してくれたおかげでした。



インターンシップ期間中、どうしてもいまいかかわらなくて相談をした時、アドバイスももらえたことや、同じ時期に似た悩みを持つ仲間の頑張る姿を見れたことも自分のモチベーションを保つことに繋がり、最終的にインターンシップ先とも良い関係構築をして終わることができました。



### 私たちの本プログラムへの想い

事務局送り出し事業担当 兼 Japan Women's Initiative 実行委員長  
慶應義塾大学 総合政策学部 4年  
野崎 琴未

JWIプログラムは発足から8年目を迎えました。私自身も昨年参加し、同じ挑戦をする女子学生との出会いや、アクセンチュア様のメンターや講師の方々のサポートにより、自分自身を見つめ直し、「ありたい姿」を見つめることができました。そんな自分の将来を考え、自分自身の目標に誇りを持つ女子学生がもっと増えていけたら良いなと思い、今年度の実行委員長として活動してきました。参加者がこのプログラムを通して、いきいきと変化していく姿を見ると、このプログラムの可能性とやりがいを感じます。関係者の皆様、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

## Education Innovator Programme

EIPは、社会に存在する様々な課題を、教育の観点から「自分らしく」解決していく「Education Innovator」を生み出すことを目的とし、Teach For Japan様、株式会社栄光様などとアイセックで協働して運営する海外インターンシッププログラムです。



### プログラム参加者の声

EIPで見つけた、  
海外インターンシップの価値



今津 千尋  
Chihiro Imazu

神戸大学1年生

インターン  
概要 | NGOでの先生の補助  
英語での授業作成

カンボジアのNGOで先生の補助や英語での授業作成を行うインターンシップに参加しました。EIPに参加したことで、自分にとってのインターンシップの価値が格段に上がったと感じています。渡航前に合宿で習ったワークショップの作り方、自分の教育観、子どもとの関わり方。これらは渡航中に孤児院の子どもと関わる中で実践的に使えるものが多かったです。そして何より、ともに教育系インターンにいく仲間たちと何ヶ月にもわたって互いに刺激をあたえあう経験はやはりここに参加することでしか得られません。この場に出会って、インターンシップをより濃く自分らしいものにすることができました。



### 私たちの本プログラムへの想い

株式会社 栄光 様

私たち栄光は学習塾をメイン事業としている会社です、そのイメージを持たれている方は多いかもしれません。しかし、私たちの理念は「最高の教育で未来をひらく」こと。つまり、よりよい未来に向けて、質の高い教育を届けることです。この実現のために、手段は問いません。このプログラムのような、日本の若い人材が、世界における社会課題に向き合い、自分には何ができるのかを考え、実践するという機会、これからの日本・世界の未来にとっては必要です。このプログラムを通して、教育を変える、社会を変えるイノベーターが生まれるかもしれないのですから。参加者たちの帰国後の成長した姿が楽しみでなりません！



今日本で暮らす外国人にとって、日本はあったかい住みかと言えるでしょうか？NESTは今日の「移民問題」を、他人事のような社会問題としてではなく、「友達の悩み」という身近な問題として取り組み、日本人と外国人の間に存在する「心理」「言語」「制度」「関心」の4つの壁を壊すリーダーを、アジア3ヵ国へのインターンや多文化共生イベント「Colorful」を通して輩出していきます。

インターン生の声

神戸大学1年

坪田 悠花



私はどんどん外国人が増える日本で、正直なところ言い難い違和感を感じていました。「観光のために来るのはいいけれど、住まれるのはなんか違うしちょっと嫌。」だと思っていました。それなら、彼らと同じ立場になってみようと思い、移民国家シンガポールのインターンシップに参加しました。現地では、「日本人」と特別扱いされない一方で、どうしても超えられない言葉の壁と孤独に苛まれました。しかし、そんな中で、悩みながらもいろんな人に支えられて、自分の価値観や世界への見方が変化した6週間でした。

(2018年夏 シンガポールに渡航)

私は、インドのデリーにある日本語学校に行っていました。日本語を勉強している人の中には日本の企業への就職、渡航が決まっている人もいました。毎日、朝から晩まで授業があつてしんどいはずなのに、日本語を勉強している姿はいつも真剣で、楽しそうで、笑顔が素敵でした。しかし、日本では外国人労働者の問題をよく耳にします。彼らの笑顔を絶やさないためにも、日本でできるだけ苦労しないためにも、渡航前から日本のことをできるだけたくさん学んでいくべきだし、私たちも日本のことを伝えないといけないと思いました。

(2018年夏 インド・デリーに渡航)

大阪市立大学3年

櫻井 瑞希



パートナー団体様の声



HIA

井口 洋 さま

様々な社会の課題について考える若きリーダーを育成しようという取組を進められる中で、在住外国人に注目した多文化共生をテーマに設定されたこと、また、学生の皆さんの現状認識やどのような課題解決アイデアを出されるのかにとても興味を持ちました。今回の取組では、答えを出すということではなく、留学生の方からの意見を踏まえて議論をするという過程が重要だったと思います。これからも多文化共生について常に意識をしていただくきっかけになれば、協力した意義があったと考えます。



ENは6週間ガーナの農村で、対話を通した内発的な開発に取り組む経験を通して、支援者・被支援者という枠にとらわれずに活躍できる人材を国際協力の場に輩出することを目指しています。今年度は、教授やガーナでの経験のある方々をお呼びし、日本各地から集まるインターン生を対象とした事前準備合宿を行いました。

インターン生の声

栄養価が高く保存も効く  
ドライフルーツを  
何度も試作しては広めた



国際基督教大学1年

田口 愛

私は滞在していた村を歩き回中でフルーツのゴミ山を何度も発見しました。村人にその理由を尋ねたところ、冷蔵庫をもつお金が無いため腐って捨てなきゃいけないのだと伝えられました。そこで、栄養価が高く保存も効くドライフルーツが思い浮かび、現地で何度も試作しては広めていました。新しい食べ物に最初はみな驚いていましたが、私が村

を去る頃は「次はいつ作るの？待ちきれない!」と言われるまで浸透して嬉しかったです。

私がこのように気付きを得て挑戦できたのは、ENの自由な雰囲気のおかげです。心から感謝しています。

(2018年夏 ガーナ・アマンフロムに渡航)

パートナー団体様の声



日本財団

田中 麻里 さま

いつもインターンの皆さんから刺激を受けています！皆さんは、課題への関心がとても高く、現状を変えるための行動力もあわせ持っています。現地では、困難に直面しても一生懸命コミュニティの人たちに向き合い、各自の経験や個性で課題を克服している様子にいつも感心するばかりです。そして、それぞれの強みを活かしたクリエイティブな活動を毎回ワクワクしながら伺っています。皆さんの貴重な経験にメンターシップが少しでもお役に立っていただければ嬉しいです、これからも皆さんの活動を応援しています！



海外インターンシップでの実践的な社会課題解決のプロセスを通じ、若者がリーダーシップ、専門性、志を得る機会を受け入れ団体様と共に創り上げていきます。

### 受け入れ事業の特徴

査証申請や住居の確保、来日中のお世話などサポート体制をアイセックで行います。また、受け入れ団体様との意見交換を通じ、インターン生受け入れのプログラムの研修内容等々をカスタマイズします。

### 3つの海外インターンシップ



#### 主にNPO・行政向けの短期インターンシップ

社会にある問題に取り組みたいと思う若者を、実際に様々な課題に取り組むNGO/NPOなどと繋げ、共に解決に向かいます。



#### 主に新興企業向けの短期インターンシップ

社会をよりよくしたいと思う起業家精神ある若者とスタートアップをつなげ、共に世の中に新たな価値を生み出します。



#### 企業向けの短期インターンシップ

豊富な知識とスキルの持った若者を呼ぶことで新たな視点をもたらし、企業の課題解決を目指します。

### 主にNPO・行政向けの短期インターンシップ



インターン先機関 : NPO/一般社団法人/教育機関など  
 給与・滞在補助費 : 無し  
 主要インターン生 : 学部生  
 期間 : 42日～3ヶ月未満

社会にある問題に取り組みたいと思う若者を、実際に様々な課題に取り組むNPOなどと繋げ、共に解決に向かいます。NPO/一般社団法人/教育機関向けの短期インターンシップで、期間は42日～3ヶ月未満です。給与・滞在補助費の負担はありません。参加する学生は学部生が多いです。

### 主に新興企業向けの短期インターンシップ



インターン先機関 : スタートアップ・ベンチャーキャピタル  
 給与・滞在補助費 : 無し  
 主要インターン生 : 学部生・院生・院卒  
 期間 : 42日～3ヶ月未満

社会をよりよくしたいと思う起業家精神ある若者とスタートアップをつなげ、共に世の中に新たな価値を生み出します。スタートアップやベンチャーキャピタルなど新興企業向けの短期インターンシップで期間は42日～3ヶ月未満です。給与・滞在補助費の負担はありません。参加する学生は学部生・院生・院卒業生です。

### 企業向けの短期インターンシップ



インターン先機関 : 企業  
 給与・滞在補助費 : 有り  
 主要インターン生 : 学部生・院生・院卒  
 期間 : 42日～6ヶ月未満

豊富な知識とスキルの持った若者を呼ぶことで新たな視点をもたらし、企業の課題解決を目指します。企業向けの短期インターンシップで、期間は42日～6ヶ月未満です。給与・滞在補助費を企業様に負担していただく形です。参加する学生は学部生・院生・院卒業生です。

### 受け入れ事業 | 今年度の実績

	昨年度の実績	今年度の実績
GLOBAL VOLUNTEER	1 件	12 件
GLOBAL ENTREPRENEUR	128 件	115 件
GLOBAL TALENT		

## 互いの視野を広げる ビジネスの国際交流

教材開発・社内講師育成事業、ビジネススキル研修事業、アセスメント事業を行う、株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ様でのインターンシップが実現しました。



- |            |   |  |
|------------|---|--|
| 担当委員会      | : | 明治大学委員会  |
| 受け入れ期間     | : | 3ヶ月半   |
| 受け入れ先      | : | 株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ様<br>業種:教材開発・社内講師育成事業、ビジネススキル<br>研修事業、アセスメント事業<br>設立:2006年<br>規模:正社員61名(うち、社内講師28名、エンジニア4名) |
| インターン生出身国  | : | アルジェリア、ウクライナ、トルコ   |
| インターンシップ内容 | : | ・社員の方へのインタビューを元にした記事作成<br>・関わりがある企業様への訪問や、工場見学<br>・自社のビジネスをインターン生の母国に広める戦略の立案・発表                                   |



### 受け入れ企業様の声 株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズ様



インターンシップの受け入れを通して  
一気にビジネス展開の視野が広がった

インターンシップを受け入れたことで得た一番の弊社の変化は、現在ビジネスにおいて進出してない、インターン生の出身国に対して強い興味を持ち、具体的なイメージを持つことができたことだと思います。これまではアジア圏内を中心にビジネス展開をしてきたのですが、インターン生のプレゼンや普段の関わりから、具体的な考え方や環境の違いやその国でのビジネスの展開イメージを持つことが出来ました。未知の世界だった地域のことを知り、ビジネスを展開していく上での視野が広がったと思います。

また、インターン生が立案した戦略について発表を行う際に、同時通訳として日本語を入れたことで、社内で英語を得意としない社員が積極的に質問する状況が生まれ、社員個人においても他国への興味が湧いたり、視野が広がったりしたのではないかと思います。同じ会社の社員同士だと似たような考え方をしてしまいがちですが、インターン生との関わりを通じて、普段思いもしなかった視点や気づきを得ることができまし

た。年代もバックグラウンドも違うインターン生だからこそ、こちらがハッとするような意見を言ってくれることもありました。何気ない習慣や文化についても、当たり前と思っていたことに疑問を呈してくれたり、提案してもらった戦略の内容も彼らだからこそ思いつく新しい案が入っていたりしました。自分の見ている範囲がいかに狭く、世界がいかに広いかという重要な感覚を得られました。また、インターン生の成長を身近に感じられた点も印象に残っています。発表に備えてプレゼンの仕上がりをチェックした時点では、タイムマネジメントができていなかったり、フォーカスすべき内容にフォーカスできてなかったりしていたので、その部分をフィードバックしました。最終発表では、インターン生自身が工夫を凝らして指摘された点を改善しており、プレゼンの質が格段に向上していて、そういったインターン生の成長を感じることができたのは、とてもうれしい瞬間でもありました。

### マネージャーの声



この研修全体を通して、研修生からたくさんものを得ることができました。インターン生は日本のインターンシップに参加するほど志も高く優秀で、私たちに刺激をくれる一方、一緒に遊びに行ったり悩みごとを相談するような、友達みたいな関係でもありました。本来なら与える立

この企業様と研修生とでしか  
つくることができないインターンシップだった

場である私に対して、研修生が「君ならできるよ」と何度も背中を押してくれたことが、とても私の糧になりました。また、細かいところまでサポートして下さった研修先の企業様にも深く感謝しています。研修でのフィードバックはもちろん、観光に連れて行って下さったりウェルカムパーティーを開いて下さったりと、インターン生のことを考えたくさんのご支援をしていただきました。私ができることはとても少ないですが、この企業様と研修生3名とでしかつくることができないインターンシップをつくることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。(明治大学 伊藤弥歩さん)

インターン生たちから学んだこと、  
教えられたことがとても多く自分自身も成長した

特に印象に残っているのは、インターン生とはほとんど英語のみでやりとりしていたのですが、私の英語が拙いことで何度も聞き返されることがあり、それを謝ったときのことです。「私の英語が下手でごめんね、そのせいであなたに伝えたいことが全然伝わってない」と連絡したところ、インターン生は「謝らなくていいんだよ。あなたも私もネイティブじゃないし、バックグラウンドも違うのだからコミュニケーションしづらいのは当たり前。むしろ普段のサポートに感謝しているぐらい」と言われ目から鱗でした。彼らのバックグラウンドは、その国にとっては当たり前でも日本から見たらとても特殊で、だからこそコミュニケーションの難しさはありましたが、最終的にこの先を続いていくパートナーになることが出来ました。私にとってのマネージャーの経験は、インターン生をサポートする立場ではありましたが、インターン生たちから学んだこと、教えられたことがとても多く自分自身も成長しました。(明治大学 金潤美さん)





多面的に地域社会へ  
関わるインターンシップ

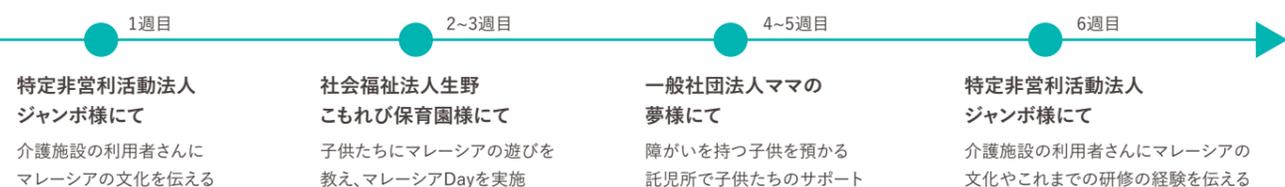
「特定非営利活動法人ジャンボ様」「社会福祉法人  
生野こもれび保育園様」「一般社団法人ママの夢様」  
三つの機関で一つのインターンシップが実現しました

- 担当委員会 : 大阪市立大学委員会
- 受け入れ期間 : 6週間
- 受け入れ先 : 特定非営利活動法人ジャンボ様  
社会福祉法人生野こもれび保育園様  
一般社団法人ママの夢様
- インターン生出身国 : マレーシア



**マネージャーの声**  
インターンシップに参加したChen Yi Naさんは医学を専門としていて、将来医師になるために経験を積みたいと本インターンシップに参加しました。介護の現場に入ることによって、日本の介護制度がわかりマレーシアとの違いや母国に持ち帰る学びがあったそうです。また、最初は苦手意識もっていた子供との関わりも、続けていく中で何を考えているのかわかるようになり好きになっていったそうです。3つの機関で、子供たちや高齢者・障害者の方というさまざまな人と関わる中で、患者さんの気持ちになって考えることを大切にできる医師になりたいと自身の将来につながる経験になったとのことです。僕にとって、インターンシップにマネージャーとして関わったことは、自分のためではなく誰かのために全力で行動することのよさがわかる経験でした。これからも、人の成長やターニングポイントに関わることを軸にしていきたいという僕自身の転機になりました。

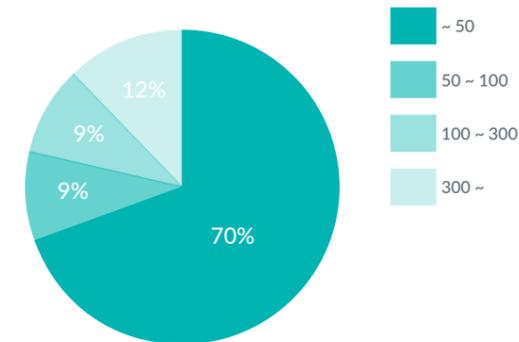
6週間のインターンシップの内容



受け入れ企業様の規模

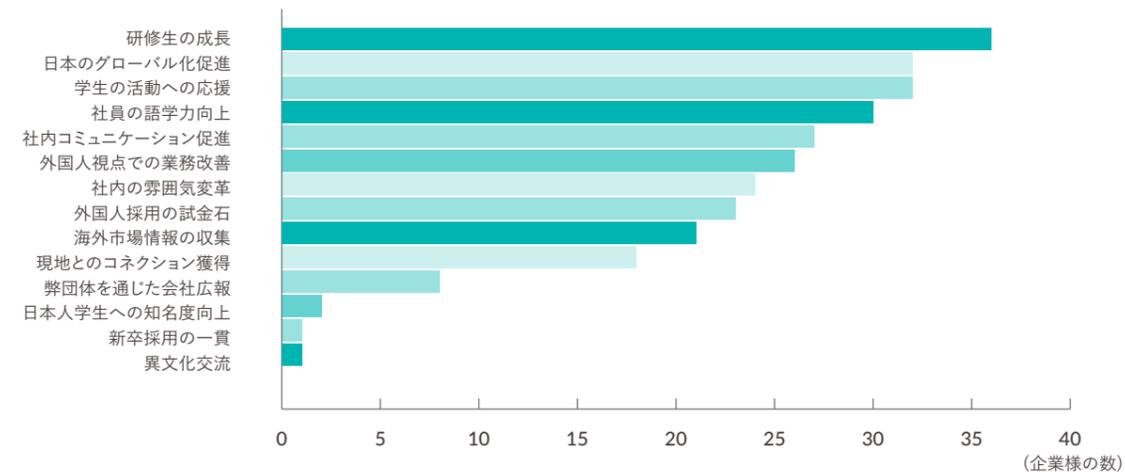
従業員数が50人以下の規模の受け入れ企業様が圧倒的多数の7割を占めています。

従業員数	該当受け入れ企業様の数
~ 50	23
50 ~ 100	3
100 ~ 300	3
300 ~	4
不明	40
合計	73



受け入れ企業様の受け入れ動機

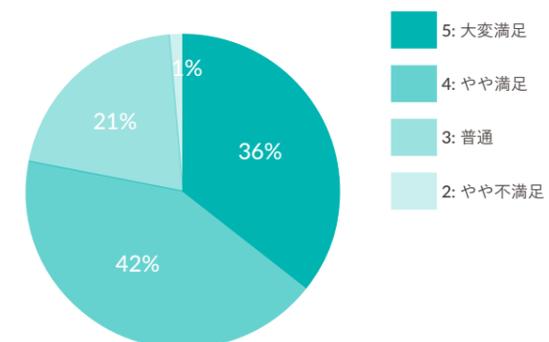
インターン生の成長、日本のグローバル化促進、学生の活動への応援、等を受け入れの動機としている企業様が多数を占めています。



受け入れ企業様の受け入れ満足度

受け入れ企業様に、アイセックの海外インターンシップの受け入れに対する満足度を5段階で評価していただきました。約8割の企業様に、4以上の評価をいただくことができています。

満足度	該当受け入れ企業様の数
5: 大変満足	26
4: やや満足	31
3: 普通	15
2: やや不満足	1
1: 大変不満足	0
合計	73



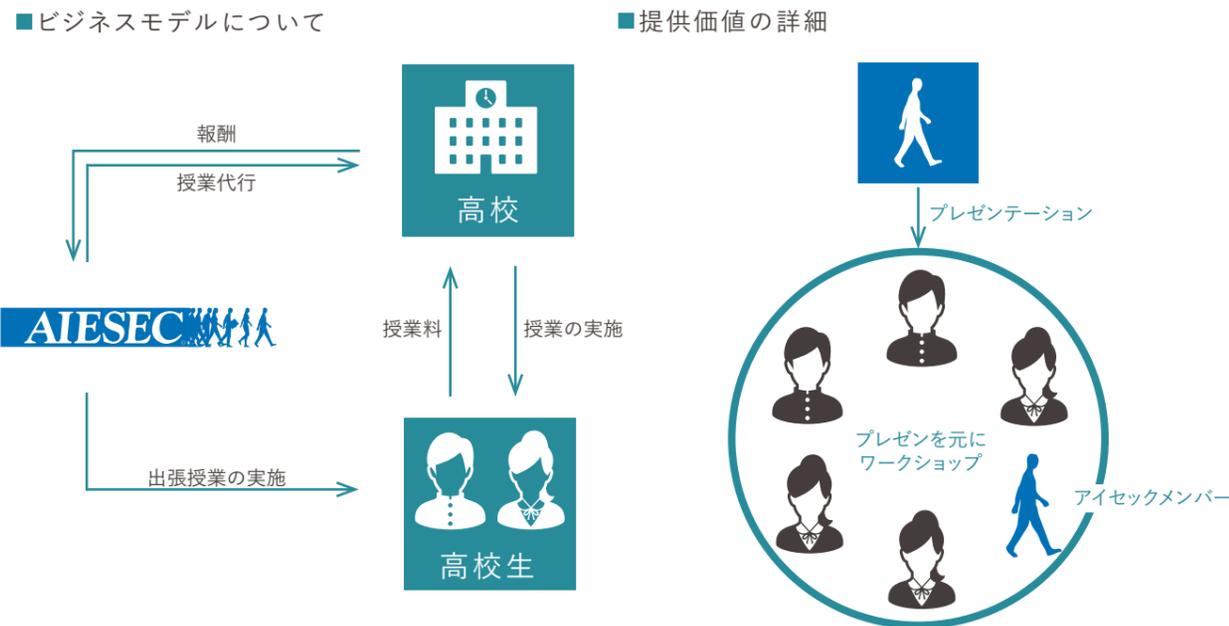
高校出張授業



『若者にリーダーとしての一步目を届ける。』

あなたには人生の何かが変わったといった瞬間はありましたか？  
それはきっと**”知る”**という経験から始まったと思います。自分の感情・想い・考え方を受け止め、周りの人の感情・想い・考え方に触れて社会の動きを学び、広い世界があると”知った”時にあなたのこれからは楽しく、面白いものになった。そんな経験がどこかであったからこそ、あなたの中の何かが変わったのだと思います。  
リーダーを目指す若者で溢れる世界を祈って、今日も私たちは高校生に**”知る”**という経験を届けます。

高校出張授業の仕組み



今年度高校出張授業実績

■授業提供人数

2156人

■授業満足度

9.375 /10

■ファシリテーター(大学生)が向き合ってくれましたか？

Yes ---- 98.4 %

■大学生/プレゼンターに憧れを持ちましたか？

Yes ---- 86.4 %

授業参加者の声

京都市公立高校



自分がやりたいことをする為や、見つけるために行動を起こしているのがとても尊敬した。私も大学生になってタイミングがあったらやってみたいと思った。

横浜市市立高校



自分達はまだ学校の勉強のことしか頭にありませんでしたが、大学生の皆さんのおかげでいかに自分が住んでいる世界が小さいかを知りました。この先、社会はグローバル化が進み、様々な問題が多角化していくと思います。そうした社会に適応し、自分が社会の一員として社会を変えていくよう、皆さんのように広い視点を持って行動していこうと思います。

先生の声(灘高等学校)

——なぜアイセックと協働していただけたのでしょうか？  
電話や来校いただいた説明は当然緊張していたためと思いますが、たどたどしいところもありました。ですが、誠実さや授業実施への熱意が強く感じられたため協働しようと思いました。

——実際に授業を行ってみてどうでしたか？  
授業の完成度はとても高いと思いました。当日の授業実施前の準備や打ち合わせを見ている、質の高い授業を実施しようという意気込みを感じました。生徒の個人情報保護への配慮など、感心させられました。





## Daybreak Conference とは

世界各地の10以上の国や地域から、大学生が茨城県つくば市に集まり、お互いの対話を通して各国が抱える社会課題に対する理解を深め、また、ご協力いただいているつくば市役所の方々や協賛企業と共に、世界の若者の社会課題解決に向けたリーダーシップを育むためのインターンシッププログラムの企画案を練ることを目的にした会議です。

### 国外からの参加者

国外からの参加者の内訳は、下図のようになりました。  
アジアからの参加者が多く、もっとも多かったのはフィリピンとマレーシアで、7人が参加しました。

アフガニスタン	...	1人
インドネシア	...	3人
オマーン	...	1人
シンガポール	...	5人
台湾	...	2人
中国	...	3人
フィリピン	...	7人
香港	...	5人
マレーシア	...	7人



### 参加者の声

これこそアイセックの魅力であるなと感じることができた国際会議でした。普段はいかに社会にインパクトを生むかという話を日本人だけで行っていました。しかし、この会議では世界の様々な国から集まった仲間とともに議論し、僕らが作りたい世界やプロジェクトを国や宗教、価値観を超えてともに見出したことがとても感動的でした。第二次世界大戦後に惨劇を二度と生まないために生まれたこの団体が作り出した奇跡のような瞬間に出会うことができ、またこれから気持ち新たに目指したい世界に向かって世界の仲間とともに走っていこうと思います。(東京大学3年 古川岳人さん)

### 実行委員長の声

社会の課題解決に若者がグローバルに共創する。その共創が弊団体の日々の海外インターンシップ事業運営活動につながることを目指して本会議を運営していました。  
この会議を通して、社会の課題をグローバルに共創し解決していくことの難しさとその可能性を僕を含めて多くの人が感じられたのではないかと思います。  
世界中のAIESECという文脈で繋がった仲間と力を合わせて、よりよい世界へと具体的な変化を起こし続けることが弊団体の

存在意義であると思います。この会議がその何かしらの契機となっていれば幸いです。(神戸大学4年 斎藤侑治さん/左上写真)



## Youth Speak Forum とは

Youth Speak Forumは、(以下YSF)は若者が社会に対して意見を発信し、思いを形にする一歩となるプラットフォーム作りを目的としています。今回のYSFのコンセプトは「カタガキを超えろ」。多様な生き方が尊重される現代で、「カタガキ」を気にせず、「じぶん」らしく生きていく、という想いがコンセプトに込められています。

### プログラム

#### 01

##### Opening

「じぶん」らしく生きるとは

時間：17:35~18:00

登壇者：出雲 充氏 (株式会社ユーグレナ 代表取締役社長)

内容：ミドリムシの可能性を信じ、世界の栄養問題解決に挑む  
出雲氏によるプレゼン



#### 02

##### Keynote

これからの社会で「じぶん」らしく生きるために

時間：18:10~18:50

内容：現代において「じぶん」らしく生きることの重要性を語るキーノート



#### 03

##### Panel Discussion

「カタガキ」に捉われない生き方とは

時間：19:00~20:00

ファシリテーター：小林 雅氏 (ICCパートナーズ株式会社 代表取締役)

スピーカー：正能 茉優氏 (株式会社ハビキラFACTORY 代表取締役/ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社 スマートプロダクト担当/慶應義塾大学大学院 特任教授)  
脇 雅昭氏 (よんなな会 発起人/総務省)

内容：様々な生き方をする社会のリーダーの想いを知り、そのルーツを探る



### 参加者の声

様々な経歴を持つ人々のお話をお聞きして自分の生き方に関するヒントを多く得られたと思いました。  
また、今自分がやっていることが将来の自分のためになるのか自信を持ってなくなっていたときだったのでそれを信じられる、やり続けることの大切さ、人と出会い様々な価値観に出会うことの大切さを感じることができて、とてもよい機会になりました。(一橋大学3年 三浦萌花さん)

Case1

私にとってアイセックは、  
世界を舞台に自分の興味や探究心を  
自由にとことん追求し、成長できる場

早稲田大学3年生  
久々湊 礼

———現在アイセックではどのような活動  
をしていますか？

受け入れ事業の中でも特に再生可能エネ  
ルギーをテーマにしたプログラムのプロジェク  
トリーダーをしています。

———アイセックの活動を通して得た自分  
の一番大きな変化は何ですか？

この活動をしている理由は、環境問題に関心  
があり将来は環境にやさしい技術を開発して  
世界に広めたいという夢があるからです。そ  
の背景には、小学六年生の時に当時自分と  
同い年だったセヴァン・カリス=スズキガリオ

サミットで環境問題に言及した「伝説のスピ  
ーチ」に心を打たれたことがありました。  
これまでの自分は一人で黙々と物事を究める  
ことに楽しさを感じるための夢も一人で地  
道な努力で達成していくと思っていました  
が、アイセックでは国境や文化・言語の壁を越  
えて海の向こうの仲間と共に取り組むこと  
になりました。活動の一環で初めてベトナム  
に渡航し、現地のアイセックメンバーの前  
でこのプログラムと一緒に運営したいと  
プレゼンテーションをして共感を得るこ  
うことができました。また、再生可能エ  
ネルギーに取り組む企業様と学生との  
出会いをプロデュースするイベント



も開催しました。これは全てアイセックだ  
からこそできたことです。一人で、では  
なく、自分の殻を割って思いもよらな  
いほどの行動力によって地球上の仲間  
と共創をできるようになったことが  
一番大きな変化です。



Case2



———現在アイセックではどのような活動  
をしていますか？

プロジェクトリーダーとしてアフリカ・ガー  
ナでのコミュニティ開発をテーマとする送  
り出し事業のプログラムを運営していま  
す。高校生でのアメリカ留学経験や、シ  
エラレオネで現地の方に対して支援を  
行うシスターとの出会いから母国であ  
る日本への愛着と、漠然と発展途上国  
で働くことへの興味を持ち始め、大学  
生活では「自分なりの発展途上国との  
関わり方を見つける」ことを目標にし  
ていたためこの活動にたどり着きまし  
た。

———あなたにとってアイセックとはど  
のような場所ですか？

このプログラムを通して渡航する日本  
人の学生に最高の経験を届けるため  
に、自分自身でガーナに渡航し、現  
地調査や、ガーナのアイセックメン  
バー・インターン先のNGOの方との  
ミーティングを通して関係構築を行  
いました。これらの経験で、世界を舞  
台に想いを形にする方法、バックグラ  
ウンドが違う人々とプロジェクトを進  
める感覚を学びました。また「日本  
の産業と発展途上国をつなぐこと  
で、双方の問題解決に貢献する」と  
いう夢を見つけること

私にとってアイセックは、  
世界を舞台に自分の興味や探究心を  
自由にとことん追求し、成長できる場

国際基督教大学2年生  
竹村 望

ことができました。私にとってアイセックは、世界を  
舞台に自分の興味や探究心を自由にとこ  
ん追求し、成長することができる場所です。



Case3

私にとってアイセックは、  
世界を舞台に自分の興味や探究心を  
自由にとことん追求し、成長できる場

滋賀大学2年生  
藤原 真歩

———現在アイセックではどのような活動  
をしていますか？

受け入れ事業の中でも特に「地方創生×発信  
」をテーマに、海外から来日したインター  
ン生が滋賀県や滋賀県の企業様の魅力  
を発信することを通じて、自分自身の志  
を育むプログラムを創っています。201  
9年に実際にこのプログラムで海外イ  
ンターン生を受け入れることが決まっ  
ており、その準備を進めています。

———あなたがアイセックで活動する上  
で大切にしている思いは何ですか？  
インターンシッププログラムの開発や運  
営を

するということは、「誰かの人生を少し  
だけ彩るお手伝いをさせてもらうこと」  
だと思っています。そこには責任も伴  
う上、たくさんの困難もあります。だ  
けど、その苦勞を上回って返ってくる  
ものが必ずあると思っています。そ  
れは、インターン生や受け入れ企業  
様からの感謝の声はもちろんです  
し、何よりも日本でのインターンシ  
ップを通して新しい気づきや変化  
を得ていく人の姿を見ることが一  
番嬉しいです。アイセックのイン  
ターンシップを選んできたからには  
、その人の人生がすごく素敵なもの  
にできるといいなと思いますし、彼  
ら彼女たちの人生の少しの変化で  
社会全体が少しでも素敵な変化を  
遂げるといいなと思っています。



Case4

私にとってアイセックは、  
世界を舞台に自分の興味や探究心を  
自由にとことん追求し、成長できる場

上智大学3年生  
小柳 雅樹

———現在アイセックではどのような活動  
をしていますか？

プロジェクトリーダーとして、送り出し  
事業の中でも特に動物愛護をテーマ  
とするプログラムを運営しています。  
この背景には、小学生の頃に動物  
虐待の現状を伝えるテレビ番組を  
見た時に受けた衝撃とものかしさ  
があります。———アイセックの活  
動を通して得た印象的な学びは何  
ですか？

社会課題に取り組む姿勢が一番の大  
きな学びです。高校生の時にメキ  
シコの高校をいくつか訪れた際、  
学校ごとの「経済格差」を肌で

感じたことで社会課題に取り組む必  
要性を痛感しましたが、一方で実行  
するハードルが高くなり、少し気後  
れる気持ちがありました。そんな  
わたしが今、動物虐待の問題に熱  
意を持って取り組むことができ  
ているのは、確実に解決できる力  
があることよりも、「その課題を本  
気で解決したいという思いが大  
事だ」とアイセックで活動する中  
で気付かされたからです。そ

して、現在の活動では「社会課題  
の”今”」を掴むために行動する  
ことにこだわりを持っています。  
インターネットの情報だけに頼  
るのではなく、最前線で活躍する  
方のリアルな声を集めることに時  
間を割き、海外インターンシッ  
プを通して同じ学生が社会課題  
に取り組む第一歩を手助けでき  
るように日々努力しています。



## InDuction Conferenceとは

アイセックに4月に入会した各大学委員会の新入生500人を、その直後に関東と関西それぞれ1箇所に集めて開催した1泊2日の合宿。1人の「大学生」としてだけでなく「アイセックのメンバー」として活動する上での心構えや自分の行動規範を上級生と共に考え、その行動規範に沿って努力し続けることを応援しあえる仲間を見つける場となりました。

対象： 2018年度にアイセック・ジャパンに入会した新入生約500人  
規模： 関東250人+上級生メンター50人 / 関西250人+上級生メンター50人  
開催目的： 今後アイセックで活動していく中で自分の行動規範を見つけること  
今後新入生自身が行動規範に沿って行動することを応援しあえる仲間を見つけること

### 「他者に寄り添い、相手を思いやる」組織に一気に魅了された



参加者  
**平澤 諒香**  
慶應義塾大学1年生

私がInDuction Conferenceを通して得た一番の変化は、入会後のアイセックの活動においてあまり積極的に行動出来なかった自分が、活動に対して一気に積極的になれたことでした。大学入学時は特にこれと決まっていたやりたいことがなく、直感的に面白そうという理由で入会したアイセックに、当初強い思い入れを持つことが出来ていませんでした。そんな中参加したこの合宿では、自分と同じ新入生だけでなく、たくさんの上級生メンバーとの出会いがありました。「他者に寄り添い、相手を思いやる」これは、出会った上級生メンバーが合宿を通してずっと私に対してしてくれていたことであり、私自身が苦手なことです。自分が苦手なことだからかもしれませんが、この姿勢を持つメンバーがたくさんいるこの組織に一気に魅了されたのです。2日間の合宿と人との出会いが私の背中を押し、今では自分が苦手なことを克服すべく日々プロジェクトリーダーとして活動に励んでいます。



### 今までの飽き性な自分とは違った自分の新しい一面に気がついた



参加者  
**岩間 達也**  
名古屋大学1年生

高校生の時僕は、大学に入るために勉強はしていましたが「自分は将来何がしたいのだろう」「何の為に受験勉強をして大学いくのだろう」という疑問を常に持っていました。大学に入っても答えは見つからず、とりあえず何か新しいことを始めたいと思っていた時に出会ったのがアイセックでした。全国から新入生が集まる合宿だと聞いてInDuction Conferenceには興味本位で参加しましたが、自分とは比べ物にならないほど強い向上心を持つ同級生に出会ったり、自分にとことん向き合ってくれる上級生メンターに出会ったりする中で「目の前のことに全力で取り組んでみよう。その取り組みがアイセックに関わる自分以外の人の成長や新しい気づきに繋げられるような人でありたい」という熱い思いが芽生えるようになりました。今までの飽き性な自分とは大きく違った自分の新しい一面に気がつくことが出来たのがこの2日間の合宿だったと思います。

### 新入生が一步成長した自分や新しい仲間と出会う場を作れたかった



開催委員会委員長  
**鶴見 和幸**  
名古屋大学大学院1年生

アイセックに入会して5年目の僕は5年間のアイセック活動の中で、楽しいことだけでなく困難にぶつかることもありました。そんな時に自分の背中を押してくれたのは、1年生の時に参加したこの合宿で築いた自分の行動規範やそこで出会った仲間たちの無条件に応援してくれる姿でした。それ以来、2年生の時は上級生メンターとして、3,4年生の時は運営メンバーとしてこの合宿に関わってきた中で、年齢が1,2歳しか離れていない同じ学生同士でも「尊敬し合う」こと、「学び合う」ことができるということ、そして、このような仲間との出会いがリーダーシップを育むきっかけになるということを強く感じました。同じ道を先に通った1人の人間として、新入生が一步成長した自分や新しい仲間と出会う場を作りたい。そんな思いで2日間の合宿を作り上げました。



## Summer National Leadership Seminarとは

各大学委員会の執行部を目指すメンバーが全国から約100人集まり、リーダーとして組織を運営するにあたって必要な知識を得ること、志を同じくする仲間を見つけ自分の思いを形にすることを目的に数日間の合宿を行いました。

対象： 次年度経営層を目指すアイセックメンバー  
規模： 100人+メンター25人  
開催目的： 自分の作りたい理想や意思の形成や経営層として活動する上で、必要なスキルやマインドを獲得すること

### 誰かに学びを与えられていない、という気づきが自分を変えるきっかけ



参加者  
**岡本 大輝**  
中央大学2年生

当初僕は執行部を志していなかったため、この合宿に参加することを自分の選択肢に入れていませんでした。しかし、たまたま先輩に参加を勧められたことから、全国のメンバーが一箇所に集まって話をすることで、何か学べることがあるのではないかと感じ参加を決めました。合宿に参加する中で、確かに周りの仲間と行動を共にし会話することで様々なことを学ぶことができていましたが、その中で拭えない違和感がありました。それは、自分は学びをもらっているが、誰かに学びを与えられていない、というものでした。学びをくれる仲間への感謝の気持ちが大きかった分この気づきはとても衝撃的で、今までの自分の姿勢を自覚し、改善したいと思う大きなきっかけとなりました。現在、私は中央大学委員会の送り出し事業統括となり、海外インターンシップを提供する責任者として、中央大学のメンバーを率いるリーダーとして活動しています。「自分は目の前の人に何を与えられているのか」ということを常に意識

し、より多くの人に価値を提供できるよう日々邁進して参ります。

### 自分が過去の経験から学んだことを後輩に伝えたかった



開催委員会委員長  
**川崎 学**  
中央大学4年生

僕は大学3年生の時に中央大学委員会の委員長を務めていました。自分なりの理想を掲げて委員長になったにも関わらず、目の前のことに必死になるにつれて当初描いていた理想に自信を持ってなくなったり、プライドや責任感が邪魔をして大切な仲間とうまく協働できなくなることがありました。この1年間は今の自分を形づくる大事な経験でしたが、「もっとこうすれば

よかった」と今でも後悔することがあります。後悔することが悪いことだとは思いませんが、自分が過去の経験から学んだことを後輩に伝えたい、執行部としての1年を自分以上に良い時間にしてほしい、という思いでこの全国集会を開催しました。「考える」だけでなくその場にいる人と実際に議論を交わし自分を見つめ直す機会にすることで、参加者はこれから執行部としてぶつかるであろう困難を乗り越える力をつけることができたのではないかと思います。



### 全国集会の運営について

年間を通して数回開催するアイセック・ジャパンの合宿企画は2種類に分けることができます。1つは全体方針を議論し決定する国内総会、もう1つはアイセックのメンバーのリーダーシップやメンバー同士の繋がりを育む全国集会です。どちらも全国25大学委員会から参加者を募り、多様な学年のメンバーが参加します。このような合宿企画は、企画案を立ち上げ実行する4-5人の Soft Conference Committee とその運営を助ける8-10人の Hard Conference Committee で運営委員会が結成され、2018年度は小規模なものも含めて約10回開催されました。



## 坂野 晶

Akira Sakano

—現在の「ゼロ・ウェイスト」の取り組みに至るまでの経緯と、そのやりがいは何ですか？

もともと大の鳥好きだった私は、10歳の時にカカゴという世界最大のオウムと出会いました。しかし同時にカカゴが人間による森林破壊や外来種の持ち込みで絶滅危惧種となっていることを知り、環境問題に関心を持ちました。今ある自然を守るだけでなく、そもそもなぜ環境問題が起こったのかという課題の根源にある、既存の社会のしくみにアプローチしたいと思い、環境政策を学びました。その中で、政策をデザインするだけでなく、現場で政策が実行されなければ意味がないと感じ、現在「ゼロ・ウェイスト(ごみや無駄をなくす)」政策を掲げる徳島県の上勝町で、政策のデザインから実装までを、実践しながら模索しています。

環境問題は絶対に取り組まなければならない課題です。それでも多くの人は何かしらの理由をつけて「難しい」と尻込みします。そんな中、上勝町のような小さな地域でも「やればできる」ということを世界に向けて今まさに実証できていること、だから誰でも取り組みると自信をもって発信できることに喜びを感じています。

—今の活動にアイセック時代の経験がどのように活かされていますか？

2019年1月にスイスで行われた、世界経済フォーラム年次総会の共同議長に選出されたのですが、会議のテーマの一つに、「愛国者でありながら、グローバル市民になれるか」という問いがありました。この問いに迷わずYESと答えられるのは、まさにアイセックでの経験があったからこそだと思っています。また、同じ会議の場で私が世界のリーダーたちに発信したメッセージの一つに「Feel Uncumfortable」というものがありました。アイセックの価値として私自身一番感じていたことがまさにこれで、「居心地の良い場所から抜け出した先に成長



がある。分かり合えないと感じる人も協働し、難しいと思うことでも一歩ずつローカルな場からアクションする。」そういったエネルギーこそが本当に世界を変えたいと思っています。

### 坂野 晶 (さかの あきら)

アイセック関西学院大学委員会にて1年次に海外インターンシップに参加、3年次に同委員会委員長を務め、4年次に休学し、アイセック・ジャパン事務局員としてアクセンチュア株式会社様との共同プログラム「Japan Women's Initiatives」を設立。その後、AIESEC in Mongoliaの代表も務める。

数年の海外勤務を経た後、現在徳島県上勝町のNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミーにて理事長として活躍中。2019年世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)にて共同議長に選出された。



## 山内 幸治

Koji Yamauchi

—アイセックに所属していたとき、どのような活動をしていましたか？

当時、アイセック・ジャパンが活動の主流を海外インターンシップとしていなかった中で大学2年次に取り組んだアントレプレナーシップをテーマとしたプロジェクトの運営が最も大きな経験だと思います。東京、京都での各4日間程の研修の後、最後にビジネスプランを発表し、研修後には東京と京都のスタートアップでインターンをする事ができる企画を海外からの参加者を呼び開催しました。世界各国のアイセック支部の中での年間最優秀プロジェクトを目指して活動していたのですが、無事受賞することが出来ました。



—今の活動にアイセック時代の経験がどのように活かされていますか？

高校までは野球部一筋だった自分はアイセックに入会したことで、社会に当事者意識を持つ先輩に出会い、社会に目を向けるきっかけをもらいました。そして活動の中で「アントレプレナーシップ」という概念を知り、誰かの人生に影響を与えるインターンシップというものの魅力に触れました。この経験が私がETICに参画する直接的な契機となっています。

また、未経験のプロジェクトでゴールから逆算して自らでプロセスを描いて達成を目指す中で得た成功や失敗の経験は、未知のものを切り開く型として今の自分の基礎になっています。



### 山内 幸治 (やまうち こうじ)

アイセック早稲田大学委員会に入会後、2年次にアントレプレナーシップをテーマにしたプロジェクトに携わり、アイセック内の世界年間最優秀プロジェクトの受賞に貢献。3年次には委員長を務めた。在学中にETICの事業化に参画し、現在はNPO法人ETIC. 理事兼事業統括ディレクターとして活躍中。



## 佐野 哲史

Norihito Sano

—アイセックに所属していたとき、どのような活動をしていましたか？

私がアイセックに入会した当時は、国際的テーマを議論するツアーや会議を行なうイベント活動と海外インターンシップ事業が並立しており、しかもイベント活動の方が主流でした。

私は、企業との強い繋がりと87カ国(当時)に広がるネットワークなど、「アイセックの本質的な強み」を活かせるのはむしろ海外インターンシップ事業だ、という方針を掲げて日本代表に立候補し、国内26支部ほとんどを回って説き、2年かけて海外インターンシップ事業を主幹事業とする現在のアイセック・ジャパンの基礎を作ることが出来ました。

—今の活動にアイセック時代の経験がどのように活かされていますか？

猛烈な反対に遭いながらも、最終的にはアイセック・ジャパンを海外インターンシップ事業体に変革できた体験で、「きちんと話せば、必ず人には伝わる」という自信がついたと共に、「日本」という規模感が自分の志と仕事の範囲として自然なものとなりました。これは現在、日本全体のあり方を考えつつ地域で仕事をする上で非常に大きな糧となっています。

日本と世界にまたがるアイセックという大組織のリーダーだったからこそ直面した、「大きな変革を成し遂げるには？」というテーマを、身を以て学ぶことができたのはかけがえのない経験だったと思います。



### 佐野 哲史 (さの のりひと)

アイセック慶應義塾大学委員会にて2年次に委員長を務め、3年/4年次に、2期連続のアイセック・ジャパン代表として海外インターンシップ事業への一本化を主導し現在のアイセックの基礎を形作る。現在は一般社団法人復興応援団 代表理事、株式会社立志社 企業研修事業部長として活躍中。



## 堅田 航平

Kohei Katada

—アイセックに所属していたとき、どのような活動をしていましたか？

私は、1年次にアイセックに入会した後、主に送り出しプログラムを担当し、自らもバングラデシュとインドで二度、海外インターンシップ参加しました。また、組織運営にも積極的に関与し、3年次には国内の大学支部の委員長、4年次にはNPO法人格取得後初の事務局長としてアイセック・ジャパンの代表を務めました。

代表在任中は、「アイセック・ジャパンの国際化」をテーマに掲げ、メンバーがグローバルなネットワークを体感する機会として神戸での国際会議開催や、海外メンバーの国内招聘等を推進しました。また、自らも日本及びアジア太平洋地域の代表として国際会議に参加し、国際事務局等に対して積極的な意見表明を行いました。

—今の活動にアイセック時代の経験がどのように活かされていますか？

現在、米国を中心に海外展開を進めるスマートニュースでは、言語や国籍にとらわれず優秀な人材を世界中から集め、テクノロジーを活用し良質な情報をユーザーに届けるという公共性の高い事業に取り組んでいます。その中で、「無報酬のボランティアを中心とした非営利組織において



、国境を超えて協力して事業を行う」というアイセックでの経験が現在の仕事に生きていることは間違いありません。

リーダー輩出という、時間軸が長く成果が見えづらいミッションを掲げ多様性に溢れた組織において、「どうすればメンバーのモチベーションを引き出すことができるか」という問いにリーダーとして徹底的に向き合い続ける経験は、アイセックだからこそ得られる貴重なものだと思います。

### 堅田 航平 (かただ こうへい)

アイセック東京大学委員会にて1年次に海外インターンシップに参加、3年次に同委員会委員長を務め、4年次にアイセック・ジャパン代表を務めた。

その後、インドでのインターンシップ参加後、投資銀行/ヘッジファンドを経て、2008年にライフネット生命保険に入社。企画・事業開発・上場準備などを担当した。その後、2014年にスマートニュースに入社し、ヴァイス・プレジデントとして管理部門の立ち上げを主導。



コンサルティングの新しいカタチ



(敬称略・五十音順)

ご協働パッケージ例

<p>1. 協働プログラム・イベント開催</p> <p>対象 : 設定したテーマに興味のある学生</p> <p>内容 : アイセックの海外インターンシップのパートナーとして共に社会課題の解決に取り組むことや、ある社会のテーマに基づいたイベントを開催します。</p> <p>支援金 : 内容に応じて調整いたします。</p>	<p>2. 内部メンバー向けトレーニング企画</p> <p>対象 : 全国25大学のメンバー 約50名</p> <p>内容 : アイセックメンバーの育成を目的に、主に大学1~3年生のアイセックメンバー 30~50名程度を対象にしたワークショップを行っていただきます。</p> <p>支援金 : 40万円</p>	<p>3. 幹部を対象としたご講演</p> <p>対象 : 25大学委員会の幹部 約250名</p> <p>内容 : アイセックメンバーの育成を目的に、全国から集まる各大学支部の幹部層 計250名を対象にした、ご講演を行っていただきます。</p> <p>支援金 : 40万円</p>
--	---	---

Case#1

パートナーパターン : 1 (協働プログラム・イベント開催)

パートナーシップ時期 : 2018年8月

協賛価格 : 20万円

詳細 : 全国から集まる100名の日本人学生と全世界から集まる50名の外国人学生による新規海外インターンシップ立案企画へのスポンサーシップ

**パートナー様の声**  
アイセックの学生の熱量の多さや、社会貢献性、グローバル志向の高さを痛感しました。

**アイセックが得られたこと**  
SDGsの達成に向け、ビジネス/行政等の立場から取り組まれている社会人の方々から企画のフィードバックを頂いたこと。

Case#2

パートナーパターン : 3 (幹部を対象としたご講演)

パートナーシップ時期 : 2018年12月下旬

協賛価格 : 40万円

詳細 : 全国から250名程度の幹部層が集まるアイセック・ジャパン国内総会でのご講演

**パートナー様の声**  
普段参加する説明会と比較すると、圧倒的に学生のコンテンツへの能動性が高く、衝撃的でした。

**アイセックが得られたこと**  
専門的な知見のインプット。

今後実施予定の協働イベント

	7月	11月
イベント名	スタートアップ企業様向け 人材ネットワークカンファレンス(仮)	キャリアイベント(仮)
概要	スタートアップ企業様と、スタートアップで働きたい学生の交流会	学生それぞれの志向性と、企業様の求める人物像を踏まえ マッチングを行うキャリアイベント
日程	関東 7月2日 関西 7月4日	11月
場所	関東 東京都新宿駅付近 関西 大阪府梅田駅付近	未定
参加学生(想定)	アイセックメンバーまたはその知人 30-50名程度	アイセックメンバー 30-50名程度
参加企業様(想定)	インターン生を募集するスタートアップ企業様 学生への認知を広げたい企業様	自社にマッチする学生と早期から接点を持ちたい企業様

貸借対照表

平成31年3月31日現在 (単位:円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
現金	10,978	未払金	1,357,307
普通預金	17,639,841	預り金	2,134,667
定期預金		借入金	
有価証券		現金過不足	
未収金	1,130,000	源泉不明金	
立替金	1,774,449	<b>負債合計</b>	<b>3,491,974</b>
保証金	872,856	<b>(正味財産の部)</b>	
基本金引当預金	3,000,000	正味財産額	25,436,150
積立金引当預金	4,500,000	(うち当期正味財産増減額)	▲ 2,654,689
現金過不足		(うち前期繰越正味財産)	28,090,839
使途不明金		(うち基本金)	3,000,000
		(うち積立金)	4,500,000
		(うち企画準備金)	
<b>資産合計</b>	<b>28,928,124</b>	<b>正味財産合計</b>	<b>25,436,150</b>
<b>借方合計</b>	<b>28,928,124</b>	<b>貸方合計</b>	<b>28,928,124</b>

活動計算書

自:平成30年4月1日 至:平成31年3月31日 (単位:円)

項目	決算額	今年度予算額	差額	昨年度予算額	差額
<b>1. 収益の部</b>					
海外研修生受入事業収入	4,649,568	9,600,000	▲ 4,950,432	6,424,784	▲ 1,775,216
海外研修生送出事業収入	8,330,000	13,100,000	▲ 4,770,000	8,970,000	▲ 640,000
学生会員会費収入					
賛助会員会費収入	3,350,000	7,000,000	▲ 3,650,000	9,989,199	▲ 6,639,199
寄付金収入	1,494,500	360,000	1,134,500	1,237,196	257,304
補助金等収入					
企画賛助収入	3,373,157	3,780,000	▲ 406,843	5,776,260	▲ 2,403,103
広告賛助収入					
年会費収入	2,500,000	2,500,000		2,500,000	
会員団体からの負担金収入	6,890,165	9,346,536	▲ 2,456,371	8,948,074	▲ 2,057,909
会員団体からのその他の収入					
国外事務局からの収入					
基本金引当預金取崩収入					
積立金引当預金取崩収入					
電話加入権売却収入					
保証金戻り収入					
基本財産運用収入	807		807	467	340
雑収入	2,697,642		2,697,642	256,570	2,441,072
<b>当期収入合計</b>	<b>33,285,839</b>	<b>45,686,536</b>	<b>▲ 12,400,697</b>	<b>44,102,550</b>	<b>▲ 10,816,711</b>

項目	決算額	今年度予算額	差額	昨年度予算額	差額
<b>2. 費用の部</b>					
<b>(1) 事業費</b>					
研修生受入事業委託費	2,940,000	5,760,000	▲ 2,820,000	3,854,870	▲ 914,870
研修生送出事業委託費	3,280,000	5,240,000	▲ 1,960,000	3,588,000	▲ 308,000
印刷製本費		150,000	▲ 150,000		
旅費交通費	6,601,921	7,095,280	▲ 493,359	5,410,672	1,191,249
施設使用料	482,152	498,010	▲ 15,858	1,900,355	▲ 1,418,203
会議費	1,442,419	473,000	969,419	3,086,814	▲ 1,644,395
委託費	3,891,650	1,575,540	2,316,110	6,753,233	▲ 2,861,583
諸謝金	47,126	51,292	▲ 4,166	23,997	23,129
飲食費					
宿泊費					
消耗品費	32,078	35,000	▲ 2,922	107,551	▲ 75,473
什器備品費					
書籍雑誌費					
通信運搬費	860,575	1,448,440	▲ 587,865	786,813	73,762
光熱水料費					
賃借料					
保険料					
会員加盟費	100,000	100,000		100,000	
人件費					
会員団体への費用					
国外事務局への費用					
電話加入権購入費用					
保証金支払費用					
基本金引当預金積立費用					
積立金引当預金積立費用					
支払手数料					
雑費	109,860	1,100,000	▲ 990,140		109,860
<b>事業費計</b>	<b>19,787,781</b>	<b>23,526,562</b>	<b>▲ 3,738,781</b>	<b>25,612,305</b>	<b>▲ 5,824,524</b>
<b>(2) 管理費</b>					
印刷製本費	3,002,250	3,643,000	▲ 640,750	2,590,185	412,065
旅費交通費	353,720	1,411,690	▲ 1,057,970	1,692,519	▲ 1,338,799
施設使用料	2,222,618	60,000	2,162,618	644,318	1,578,300
会議費	1,558,373	1,760,000	▲ 201,627	4,136,412	▲ 2,578,039
委託費	36,804	3,000	33,804	31,016	5,788
諸謝金					
飲食費					
宿泊費	532,635	281,000	251,635	421,508	111,127
消耗品費	728,565	1,354,706	▲ 626,141	786,494	▲ 57,929
什器備品費					
書籍雑誌費	129,060	198,300	▲ 69,240	490,280	▲ 361,220
通信運搬費	357,187	756,000	▲ 398,813	355,782	1,405
光熱水料費	2,378,946	2,460,000	▲ 81,054	2,351,648	27,298
賃借料				14,000	▲ 14,000
保険料		49,248	▲ 49,248	18,090	▲ 18,090
会員加盟費					
人件費				7,200	▲ 7,200
会員団体への費用	4,480,475	6,340,000	▲ 1,859,525	5,186,527	▲ 706,052
国外事務局への費用					
電話加入権購入費用					
保証金支払費用					
基本金引当預金積立費用					
積立金引当預金積立費用	319,444	205,866	113,578	304,668	14,776
支払手数料	52,670	4,800	47,870	140,400	▲ 87,730
雑費					
<b>管理費計</b>	<b>16,152,747</b>	<b>18,527,610</b>	<b>▲ 2,374,863</b>	<b>19,171,047</b>	<b>▲ 3,018,300</b>
<b>当期費用合計</b>	<b>35,940,528</b>	<b>42,054,172</b>	<b>▲ 6,113,644</b>	<b>44,783,352</b>	<b>▲ 8,842,824</b>
<b>当期繰越剰余金増減額</b>	<b>▲ 2,654,689</b>	<b>3,632,364</b>	<b>▲ 6,287,053</b>	<b>▲ 680,802</b>	<b>▲ 1,973,887</b>
<b>前期繰越剰余金金額</b>	<b>20,090,839</b>	<b>20,090,839</b>	<b></b>	<b>332,815</b>	<b>19,758,024</b>
<b>次期繰越剰余金金額</b>	<b>17,436,150</b>	<b>23,723,203</b>	<b>▲ 6,287,053</b>	<b>▲ 347,987</b>	<b>17,784,137</b>
<b>3. 資金増加の部</b>					
保証金増加額					
基本金引当預金増加額					
積立金引当預金増加額					
<b>4. 資金減少の部</b>					
保証金減少額					
基本金引当預金減少額					
積立金引当預金減少額					
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>▲ 2,654,689</b>	<b>3,632,364</b>	<b>▲ 6,287,053</b>	<b>▲ 680,802</b>	<b>▲ 1,973,887</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>	<b>28,090,839</b>	<b>28,090,839</b>	<b></b>	<b>28,090,839</b>	<b>28,090,839</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>25,436,150</b>	<b>31,723,203</b>	<b>▲ 6,287,053</b>	<b>▲ 347,987</b>	<b>26,116,952</b>

アイセック・ジャパンでは安全サポート株式会社様と連携し渡航する学生の安全対策に取り組んでいます。

渡航者への取り組み

渡航の流れ

危機管理能力を有するインターン生の選定



危機管理能力を持った人だけにプログラムを提供するために、インターン生の選定を行っております。以下の選定を行い一定基準を満たす人のみの参加を許可しております。

- ・社会人の面接官による危機管理能力の判定
- ・危機管理ガイドラインの把握をチェックする危機管理能力テスト

危機管理講習会



インターン生の皆様には危機管理講習会を出国前に受講していただいております。この危機管理講習会は危機管理専門家の監修の元作成しており、インターン生には海外で起こりうるトラブルや、そこから自分の身を守る方法を事前に学習していただけます。

24時間対応窓口



アイセック担当マネージャには引き続きインターンの報告をしていただき、相談を行うことができますが、病気・怪我・自然災害・政変による情勢悪化等のトラブルに遭遇した場合、危機管理提携企業の24時間対応可能な窓口もご利用頂けます。病院のご案内やトラブル遭遇後に取るべき手段のご紹介が可能です。また、伝言サービスにより日本にいる保護者の方にもメッセージを確実にお届けすることができます。



危機管理ガイドライン

「危機管理ガイドライン」を全てのインターン生に配布しています。

- ・渡航前の準備
- ・渡航時の注意事項・禁止事項
- ・現地滞在時の注意事項・禁止事項
- ・危機に遭遇した場合のアクション
- ・トラブル実例

に分かれており、事前に収集すべき海外情報やトラブルの対応例といった具体的な情報を入手できます。



到着確認

すべてのインターン生は現地到着後1.5時間以内に現地出迎え担当者と合流できた旨を日本のマネージャに連絡します。現地到着時には、大学委員会担当者及び事務局担当者が連絡状況を随時把握できるよう待機しています。また、到着の状況は随時危機管理の提携企業でもチェックをしており、トラブルがあった際は即座に対応できる体制が整っております。

制度/取り組みの定期的な見直し

海外安全管理委員会

春期と秋期の年に2回、学生の海外への送り出し研修事業における安全管理体制を監査するための諮問委員会を開催しております。以下の内容に関して団体外部の有識者や危機管理の専門家の方々より指摘、提言をいただいております。

- ・安全管理制度の履行状況の監査
- ・安全管理における改善

"AIESEC changed my life,I believe AIESEC changes the world."

「なぜアイセック・ジャパンの代表になったの?」と海外インターンシップ生に尋ねられた際に、僕自身が答えた言葉です。

社会は、相手を打ち負かして、自らが勝ち取る時代から、人と手を取り合い、富を分かち合う時代へと確実に変化しています。

その変化に素早く適応し、名だたる企業やNPOが取られている戦略を追う形で2019年度のアイセック・ジャパンもあるべき世界の理想を描き、魅了し弊団体の技術を公開し、広く社会に成功を再現させあらゆる同志と提携してより良い世界に向かって前進する方針に舵取りしていきます。

「志を同じくする方々と共に歩む」1年間にしてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

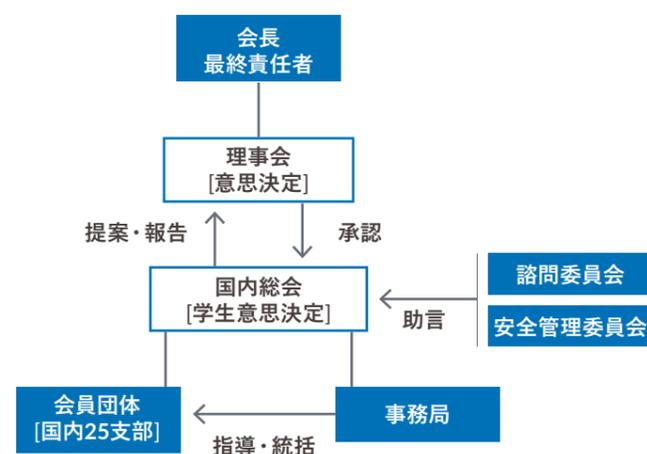
特定非営利活動法人アイセック・ジャパン  
2019年度事務局長 阪田直樹



## Governance

アイセック・ジャパンでは、各務会長を中心とする理事会にて最終意思決定を行い、その責任は各務会長が負います。しかし理事会での意思決定の前に運営する学生の意思決定の場として国内総会があり、会員団体である全国25大学支部で構成されます。ここでの議論の結果を理事会に提案・報告し、理事会での議論を経て承認するというが意思決定プロセスです。専務理事・常務理事は学生理事です。諮問委員会は外部諮問が理事会や国内総会での議論、日々の運営に対し助言を与える機関であり、安全管理委員会は海外活動での安全を担保することを目的とし、外部委員から構成され日々の海外活動での安全管理に対し助言を与えます。事務局は学生によって構成され、各会員団体の活動に対し指導・統括を行います。各会員団体は各々の大学を中心として日々の活動を行う運営の主体です。

### ● 団体構成



### ● 会員団体一覧



## 基礎情報

団体名 特定非営利活動法人アイセック・ジャパン  
 英名 AIESEC in Japan  
 所轄庁 東京都  
 設立 1962年(2001年 特定非営利活動法人格取得)  
 会長 各務 茂夫(東京大学教授 産学協創推進本部イノベーション推進部長)  
 専務理事 牧原 宙哉(東京大学 法学部 4年)  
 副会長 松塚 ゆかり(一橋大学森 有礼高等教育国際流動化センター教授)  
 常務理事 伊津野 咲(東京大学 経済学部 4年)  
 理事 伊藤 友章(北海学園大学 経営学部教授)  
 理事 江夏 幾多郎(名古屋大学 経済学部准教授)  
 理事 梶山 泰生(京都大学 経済学部教授)  
 理事 米田 邦彦(広島修道大学 商学部教授)  
 理事 菊地 端夫(明治大学経営学部 公共経営学科准教授)  
 監事 太田 康広(慶應義塾大学 ビジネス・スクール教授)  
 活動分野  
 ・社会教育の推進を図る活動  
 ・国際協力の活動  
 ・前各号の掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動  
 事務所所在地 〒162-0814 東京都新宿区新小川町4-16 飯田橋プラレールビル3階  
 電話番号 03-6457-5806  
 Fax番号 03-6457-5809  
 Email info@aiesec.jp  
 会員団体数 25大学委員会  
 会員数 1600名程度  
 HP http://www.aiesec.jp